

# 令和6年度施設関係者評価会

幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園

日時 令和6年12月17日（火） 13:30~14:30  
場所 高倉台幼稚園 1F 応接室  
内容 参観

## はじめのあいさつ

参加者の紹介 石田 裕子 神戸女子大学教育学科准教授  
隠岐 厚美 神戸女子大学教育学科准教授  
山成 昭世 神戸女子大学教育学科特任教授  
木村奈帆子 高倉台幼稚園園長  
久郷 真美 高倉台幼稚園主幹

## 本園の取り組み説明

- ・本園の教育目標「優しい心をもち、主体的に行動する子どもを めざして」
- ・今年度の努力目標「返事は『はい』 話を聴く やってみよう！ 考えよう！」
- ・1学期保護者アンケート及び自己評価について

## 意見交換及び評価

- ・子どもたちはいつも元気いっぱい！生き生きとした表情が印象的である。
- ・主体的に行動する子どもを目指し、ワクワクするような環境づくりをしている。今年度は「ミック」や「迷路」など子どもたちの興味・関心から大学探検をし、インターンシップやボランティアの学生にとっても幼児理解の学びの場となった。今後は、実習の一環で大学探検をしてもよいのではないか。
- ・努力目標の挨拶や返事は、継続することで身に付くので意義深い。今後も大人が率先して挨拶をすることが大切である。
- ・保護者アンケートでは「小学校に行くことを見据えてもらい安心」という感想があった。園の教育・保育の意図を保護者に向けてきちんと発信している。それを保護者も正しく評価している。また、幼保小の学びの接続が求められているが、子どもが自信をもって生活することが小学校に繋がる。
- ・子どもたちの生活が慌ただしいのではないかと感じる事がある。行事の見直しをし、ゆったりと遊び込める時間をもてるようにすることも必要ではないか。
- ・ノンコンタクトの時間がもつことが必要であると言われている。クールダウンする時間は職員室とは違う部屋でとればよいが、難しい。
- ・保育記録を書くことは、保育の質の向上に繋がる。時間を確保し、書く場所や書き方は個々に合った方法を考え、記録の継続をしていきたい。
- ・各担任は実習記録を丁寧に見て、学生を育てようとしている。学生もそれを感じ、実習記録を大切にしている。
- ・職員一人一人が時間を意識し、計画的に仕事できるようになった。また、協力し合うととともに主体的にできるようにもなってきている。今後も協働力を高めていく。

## 終わりのあいさつ